

# 果樹カメムシ情報 第2号

平成23年8月2日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除グループ

## 1 現在の発生状況

(1) チャバネアオカメムシのフェロモントラップ及び予察灯における誘殺数は現在少ない状況です(図1、2)。果樹園への飛来や果実の被害は確認されていません。

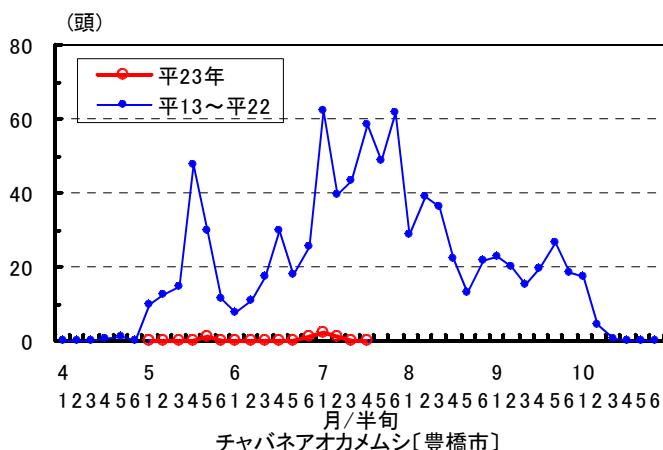


図1 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺状況

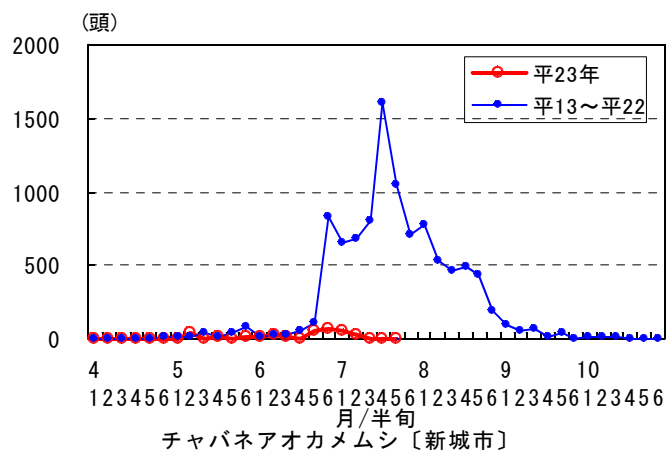


図2 予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺状況

(2) 7月下旬のヒノキ1結果枝当たりのチャバネアオカメムシ寄生虫数は成虫 0.05頭、幼虫0頭でした(図3)。これは過去7年で2番目に少ない状況です。また、7月下旬のヒノキ1球果あたりの口針鞘数は平均 0.3本で、少ない状況でした(図4)。

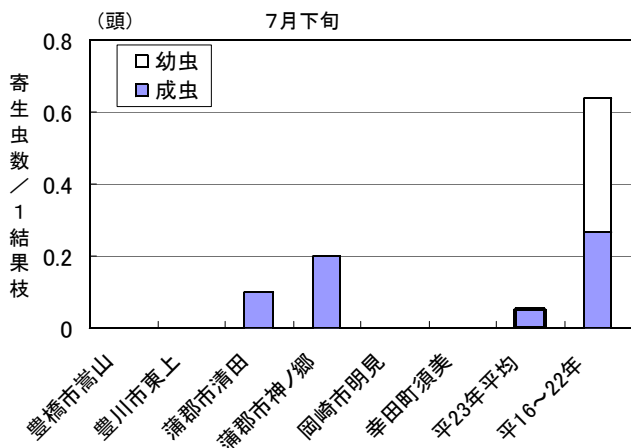


図3 ヒノキ結果枝における寄生虫数

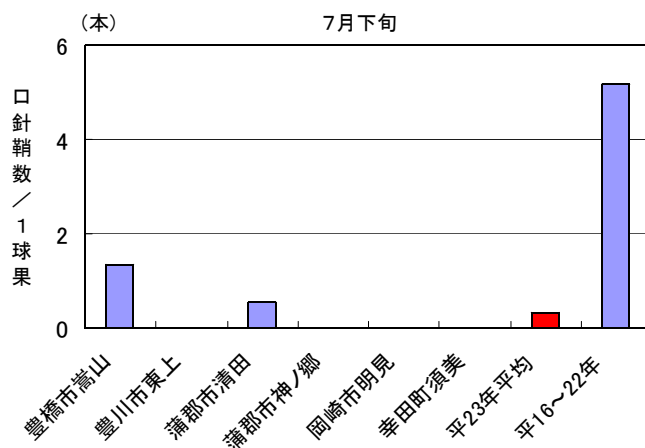


図4 ヒノキ球果における口針鞘数

## 2 今後の発生予測

- 現在、果樹カメムシ類はスギ・ヒノキ球果をエサにして山の中で繁殖しています。
- 現在のヒノキ結果枝寄生虫数は少ない状況ですが、エサであるスギ・ヒノキ球果着生量が平年並よりやや多いため新世代成虫発生量はやや多くなると予測します。
- 7月下旬時点のヒノキ球果の口針鞘数から、8月における新世代成虫の果樹園への飛来量は少なく、果樹園への本格的な飛来は9月上旬以降と予測します(口針鞘数が1球果あたり25本になるとヒノキから離脱して果樹園へ飛来します)。
- 台風通過後には山際の果樹園へ飛来することがありますので、注意しましょう。
- スギ・ヒノキから離脱して果樹園への飛来が始まると、平年を上回る飛来量になる可能性があります。9月以降は、果樹園内をよく見て回り、果樹カメムシ類の飛来に注意しましょう。